

幼稚園や学校で 話すようになるまで 時間がかかる子どもがいます

場面緘黙とは？

特定の社会状況（学校など）で話すことができない状態を場面緘黙といいます。

出現率

0.2～0.5%くらい。
海外では0.7%をあげることが多い。

よくある誤解

- ・わざと黙っている。
- ・そのうち自然に治る。
- ・家庭に問題がある。

よくない対応

- ・発話を強制する。
- ・話さないことを責める。
- ・サポートせずにそのままにしておく。

正しい対応

- ・不安を減らし、リラックスできる環境を作る。
- ・できることをほめて、自信を育てる。
- ・安心できるコミュニケーションを促進させる。

このリーフレットには、場面緘黙児を支援するための大まかな指針が掲載されています。

場面緘黙の子どもたちと保護者には
周りの理解と温かい支援が必要です

場面緘黙は一般にあまり知られていません。
日本では情報が少なく、孤立した状況に置かれている緘黙児や保護者も少なくありません。

かんもくネット（Knet）は
「場面緘黙児支援のための
情報交換ネットワーク団体」です

緘黙児の家族、場面緘黙経験者、教育・福祉・医療関係者などの会員からなり、心理士と保護者が事務局を運営しています。
場面緘黙に関する知識や実践の情報交換と、もっと多くの方に場面緘黙を知ってもらうための活動を行なっています。

かんもくネットの本やウェブ上のKnet資料を読むと、さらに詳しい情報が得られます。

詳しくは、かんもくネット
<http://kanmoku.org/> まで

ばめんかんもくじ 場面緘黙児への対応と支援

—学校・福祉・医療関係者の皆さんへ—



場面緘黙児支援団体
かんもくネット
<http://kanmoku.org/>

場面緘黙とは？

場面緘黙とは、家庭で普通に話すのに幼稚園や学校などの特定の状況で話せない、といった小児期のまれな症状をさします。「選択性緘黙」とも言われ、日本では情緒障害として特別支援教育の対象です。近年の研究では、子どもの不安障害の1つではないかと言われています。

子どもは自分の意思で話さないのではありません。どういう状況で話せないかは子どもによって様々です。特定の友達となら話せたり、音読や発表はできる子どももいます。体が硬直して動けず、無表情でじっと立ちつくしてしまう子どももいます。

入園入学・転校後に生じることが多く、一時的な場合もありますが、適切な対応がないと学校生活を通してこの状態が長く続くことがあります。

原因は？

なぜ場面緘黙になるのか、まだ詳しいことはわかっていません。場面緘黙は、子どもによって影響している要因が異なり、複数の要因が複雑に絡み合って生じるようです。

緘黙児の多くは、生まれながら「行動抑制的な気質」をもつと言われています。新奇なものに対する感受性が高いため不安になりやすく、新しい環境に慣れるのに時間がかかります。まじめで繊細、想像力豊か、芸術的センスをもつ子どもが多いようです。

子どもたちは他には特に問題なく、話すことが必要な場面以外では、たいいてい年齢相応の成長をみせます。軽いことばの遅れ、発達障害の傾向、感覚過敏、排泄障害などをあわせもつこともあります。バイリンガル環境や双子の発達の影響で、場面緘黙が生じる場合もあります。

早期対応と支援が重要です

場面緘黙の子どもはおとなしく、学校で見過ごされがちです。保護者が場面緘黙に気づいていない場合もあります。また、保護者が子どもの状態に落ちこんでいたり、保護者も繊細で気を遣うタイプであるために、学校や相談機関に支援を求めることを控えてしまう傾向があります。

自然に任せておくだけでは、子どもの状態がよくなる保証はありません。入園入学後、通常慣れるまでにかかる期間を過ぎても子どもが話さないときは、特別支援教育コーディネーターやスクールカウンセラーは、対応や支援を始めるべきです。

保護者に対してできること

場面緘黙児への支援は、家庭と学校が協力しあい、継続的な情報交換を行いながら取り組むことが大切です。

場面緘黙の回復はゆっくりで取り組みは長期に渡ることが多いです。そのため、保護者には精神的なサポートが必要です。

基本方針は？

『楽しく・自信をつけながら・場数を踏む』

- ・ 話すことを強制しません。
- ・ 初めは身振りや仕草で、ことばを用いないコミュニケーションを十分奨励し、その状態に慣れてしまわないよう徐々に発話に近づけていきます。
- ・ 今安心して話せる状況から、スモールステップで話せる場所や人を増やし、学校の教室へと場所を移していきます。
- ・ 子どものペースで進めます。

子どもたちに対してできること

- ・ 場面緘黙を不安から生じる症状ととらえ、安心できるよう幼稚園や学校の環境を整えます。

- ・ 子どもは「まだ話し出していないだけ」です。家庭や学校で、常にポジティブなことばかけを行います。
- ・ たくさん話しかけてください。最初は目を見つめずに横位置からがよいでしょう。得意な活動を見つけ、さり気なくほめて自信を持たせます。
- ・ 家庭や学校で、友達との交流や活動への参加をサポートします。
- ・ クラスの子どもたちに理解を図り、「話さない子」というレッテルが貼られないようにします。
- ・ 「話した時に騒がない」とあらかじめ他児に伝えます。
- ・ いじめのターゲットにならないように注意します。
- ・ 行事などの新しい状況には、前もって準備して慣れるようにしていきます。学校の活動を家庭で予行練習するのもいいでしょう。
- ・ 幼稚園や学校で小グループ活動を行いましょう。ジェスチャー遊びやボールを使った交流遊びがよいでしょう。
- ・ シャボン玉・笛・風船など口の筋肉をほぐす遊び、ペアで体を動かす遊び、楽器を用いた騒がしい遊び、単純で繰り返しの多い歌遊びなどは効果的です。
- ・ 放課後や休日、保護者と一緒に学校を訪れ遊ぶ活動は特に効果的です。徐々に教師も加わるとよいでしょう。
- ・ 保護者に時々幼稚園や学校に来てもらい、特別活動などを手伝ってもらいましょう。
- ・ 先生や支援員が家庭訪問を行い、一緒に遊んで安心できる関係を築くと発話を引き出すことができます。話せる人との会話を、学校で他の人や場所に広げていきます。
- ・ スモールステップで段階的に進めることが大切です。まず、誰もいないところで母親と話せるようにし、次にそこに先生や友達の1人を徐々に入れて、子どもが母親に向かって小声で話せるようにします。それから、教師や友達と話せるようにして、母親は退きます。
- ・ 校内や先生をビデオや写真に撮って家庭で見ます。子どもが望むなら、誰もいない教室で話している子どもの姿を親が撮影して、家庭で見るのもよいでしょう。
- ・ 家庭で子どもが話している様子や音読を録音録画したものを、学校で再生したり、教師や友達に見せる方法もあります。子どもに許可を取ります。（ことばの発達のアセスメントもできます）
- ・ 先生や友達と手紙やメール、電話などを用いてコミュニケーションを図ります。